

## 会 議 録

会議の名称		第76回小金井市公立保育園運営協議会次第
事務局		子ども家庭部保育課
開催日時		令和6年9月28日(土) 午後3時30分～5時15分
開催場所		市役所第二庁舎801会議室
出席者	五園連	斎田 憲 委員(くりのみ保育園) 橋本 博人 委員(くりのみ保育園) 石塚 保章 委員(わかたけ保育園) 荒木 理恵 委員(小金井保育園) 平山 剛大 委員(小金井保育園) 赤川 聡子 委員(さくら保育園) 大川 善弘 委員(さくら保育園) 坂井 奈央子 委員(けやき保育園)
	市	堤 直規 委員(子ども家庭部長) 中島 良浩 委員(子ども家庭部保育課長) 吉田 亮二 委員(保育施策調整担当課長) 前島 美和 委員(くりのみ保育園園長) 杉山 久子 委員(わかたけ保育園園長) 小方 久美 委員(小金井保育園園長) 柴田 桂子 委員(さくら保育園園長) 池田 由美子 委員(けやき保育園園長)
欠席者	五園連	和田 尚子 委員(けやき保育園) 佐田山 彩紀 委員(わかたけ保育園)
傍聴の可否		○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数		3人
会議次第		1 開会 2 議事 (1) 前回会議録の確認 (2) アンケートについて アンケート集計結果について (3) その他 ① 小金井市立保育園の在り方検討委員会の実施状況について ② コドモンの活用について ③ その他 (4) 次回日程について

発言内容・ 発言者名（主な 発言要旨）	別紙のとおり
会議結果	1 開会 2 議事 (1) 前回会議録の確認 (2) アンケートについて アンケート集計結果について (3) その他 ① 小金井市立保育園の在り方検討委員会の実施状況について ② コドモンの活用について ③ その他 (4) 次回日程について
提出資料	(1) 資料303 令和6年度公立保育園の運営に関するアンケート調査 (集計結果) (2) 資料301 小金井市立保育園の運営に関するアンケート経年比較 (令和4年度～令和6年度)
その他	なし

開 会

○堤委員長 ただいまから、小金井市公立保育園運営協議会の会議を開会いたします。本日は、対面、リモート併用での会議となります。

リモート参加の方につきましては、音声のみでの参加となりますので、よろしくお願いいたします。

齋田委員長からも、ご挨拶をお願いいたします。

○齋田委員長 本日の議事の中では、特にアンケートについての議題が中心となるかと思いますが、積極的なご発言のほど、よろしくお願いいたします。

以上です。

○堤委員長 ありがとうございます。

本日の会議では、わかたけ保育園の佐田山委員、けやき保育園の和田委員から欠席のご連絡をいただいております。それから、リモート参加は小金井保育園の荒木委員で、ちょっと遅れての参加とご連絡いただいております。また、けやき保育園の坂井委員がリモート参加となりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って早速進行させていただきます。まず（１）の前回会議録の確認です。特段修正のお申出はいただいておりますので、校正依頼した内容をもって確認と思っているのですが、「・・・」となっているところがありますので、事務局のほうでそれについては確認させていただいて、直したいと思います。恐縮ですが、次回会議の前に公表もしていきたいので、そちらの修正については、齋田委員長と私のほうにご一任いただきたいのですが、それでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○堤委員長 では、微細な修正になると思いますので、そちらのほうは事務局のほうでさせていただきます。

では、（２）本日の本題のほうにはいりますが、アンケートについて、吉田課長から説明をお願いします。

○吉田委員 保育施策調整担当課長の吉田です。よろしくお願いいたします。

まず、今回のアンケート調査については、大きく四つの内容について設問を設け、回答をいただきました。一つ目としては全体の評価、二つ目として保育ニーズについて、三つ目として公立保育園の保育の状況について、四つ目として公立保育園の保育士体制についてアンケートを実施したところです。

それでは資料303、令和6年度公立保育園に関するアンケート調査（集計結果）及び資料304の小金井市公立保育園の運営に関するアンケート経年比較、（令和4年度～令和6年度）をご覧ください。

はじめに、アンケート調査の1ページ目、調査概要です。1、調査世帯は市内公立保育園全世帯を対象といたしました。2、回答状況は各園記載のとおりとなっておりますが、回収率は合計で65.52%となり、前年度と比較すると約15%の上昇となりました。要因としまして、ウェブでのアンケートの実施や設問数を絞ったことなどが要因としてあったのかなど考えているところです。3、調査期間は、令和6年7月26日から8月12日までの約2週間として行いました。4、調査方法はL o G oフォームによるウェブアンケートを実施いたしました。

それでは、内容に入っていきたいと思います。続きまして2ページ目、全体評価の「現状の小金井市の公立保育園に満足していますか」の設問では、9割以上の方が「満足している」、「おおむね満足している」という結果となり、令和4年、令和5年度と同様に高い満足度を維持していることとなります。

続きまして3ページ、4ページで「満足している」、「おおむね満足している」の理由といたしましては、保育士の園児への対応、保育内容及び園庭が上位となっております。

続きまして10ページ、保育ニーズについて市に要望したいことといたしましては、保育士の欠員を含めた体制の問題、駐車場の確保及び連絡書類の電子化が要望の上位となり、過去と大きく変わっていないという結果となっております。なお、令和6年度はそれまで選択できる個数は五つ以内としていたものを三つ以内としたことから、全体的にパーセンテージが低下しているという状況になっています。

続きまして13ページ、公立保育園の保育の状況につきまして、5園合計で各項目とも「はい」が多数となり、傾向は変わっていないようであります。「いいえ」の割合が比較的多い項目は、保護者が参加する行事の日程や建物の広さや設備となっているところがございます。

続きまして19ページ、公立保育園の保育士体制についてにつきましては、現状で十

分な体制が取れている、または保育士の努力などで保育の質を保っているとの回答が多い一方、このままでは保育に支障が出るとの回答も一定数あるところです。大きな傾向としてはあまり変わっていないようでございます。

続きまして、23ページ以降の自由記述についてでございます。今回、個人の誹謗中傷に当たる記述は削除させていただきました。また、記入者が特定できる記載内容を一部黒塗りを行っているところがございます。また、自由記述で多かったのは、公立保育園の存続や廃園に関する意見、保育に関する満足な点や、好意的な意見が多く、設備や整備に関する意見も多く見受けられたところになります。説明は以上になります。

○堤委員長      ありがとうございます。まずは、ご回答へのご協力、ありがとうございます。一番重なっているところで、三つのアンケートがあったわけですが、この短期間の間に高い回答率をいただいたこと、大変ありがたく思います。ありがとうございます。

それでは、石塚委員からご要望のほうがあって、共通項のあるところだけをピックアップした形になりましたけれども、経年比較の資料304がありますので、こちらのほうもご覧いただければと思います。今申し上げたとおり、回答率のほうは去年おととしと比べても大きく増加していて、ありがたく思っています。

満足度のほうは若干低下しているということになってはいますが、保育内容とか園児への対応、先生方のご努力たまものですが、こちらについてはおおむね満足している以上の回答をいただいているということになるかと思えます。保育ニーズのほうは、体制のほう相変わらず課題でございまして、こちらのほうについても要望したいこととして挙げられている。それから施設面の改善、連絡書類の電子化、この後のコドモのこととかも関わってきますけど、こういったことについても高いご要望があるということ、アンケートからも認識しているところです。

それでは、このアンケートの内容について、まずご質問、その上でご意見のほう協議事進行上はうまく進むかなと思うんですけども、ご質問等ありましたらお願いできますでしょうか。

○石塚委員      資料の提示、ありがとうございます。まず、私たちとしても、昨年度にL o G o フォームに変えて今年度という形と、設問を絞ったということは、昨年度の委員からの引き継ぎにはなるんですけど、結果的にはパーセンテージが上がっているというところは大きな変化だと思うのですが、市の、例えばこのデータを処理したり、集計するに当たって、市の方たちのその仕事の量だったり、その辺りはいかがなのかなと、よろしい

でしょうか。

○事務局 作業的には、特に自由記述の回答項目自体が減ったので、その集計はやりやすかったです。自由記述のページ数が、一昨年までは40ページくらい、今年は20ページくらいになっていたので、ボリューム的に絞られているというところで、かなり時間的にも短縮はできたというふうに思っています。

○堤委員長 端的に言うと、もともと紙でやっていたときよりも、自由記述の入力とその確認というのがなくなったので、そこを早く把握、共有できるようになりました。同じく数字のほうもL o G oフォームからすぐ取れますので、この辺もミスとかの可能性もなく、前は時間を2か月ぐらいいただいていたのですが、それがこういった形で早く共有ができた。ありがたいことに、行政側の作業負担も減りましたけれども、それだけじゃなくて、すぐに共有できるので、ありがたく思っています。その上でちょっと設問が減っている、それが入力のしやすさ、回答しやすさにつながっているかもしれない。もう一方では、もっと自由記述のところでも聞きたいことがあったけれども、入力しにくいところが回答する方にとってはあるかもしれないとかということですかね。この件はちょっとバランスの問題になってくるかと思えますけど、保護者の委員からも何か思ったことがあれば、フィードバックをいただければと思います。

○石塚委員 多分、昨年度で回答途中で閉じてしまったりということがあったので、それに比べれば、直接話を聞いているわけではないんですけど、私個人としてもすごく回答が楽になったかなと。途中保存できる、何かあったら途中で閉じたりだとか。あともう一点確認したいのは、この実施の時期がどうだったかということで、去年とほぼ同じ時期であることと、昨年度は結局回収率が低かったので、回答期間を延期をしたんですけど、特に今年度は園によっては三つ重なってしまったので、その辺りも含めて、来年度以降もこのアンケートを継続していくわけですから、実施の時期もこの辺り、8月末から9月中旬までと決められるといいかなと思ったんですけども。その辺りはどうでしょう。

○中島委員 アンケートの内容のご意見をいただきながら、後半では、今おっしゃっていただいたような次年度の実施方法についても議論をいただこうと思っているので、協議の部分を分けて、そういった部分を後半によければまとめて、来年に向けて実施をどうやっていくかというところでまたご協議いただければと。

○石塚委員 オーケーです。では後半で。

○堤委員長 一旦ご質問をお受けして、実施時期も含めて次年度に向けて後で協議をさせていただきます。

こうと思います。ご質問とか、この部分どうなんだとかというのがあればいただければ。一旦ご質問、後でいただきますけども、ご要望も含めて今後どうしたらいいというところに一旦シフトしたいと思います。

○平山委員　先ほどご意見がありましたけども、そこで出たところでいくと、今回の、毎年そうなのかもしれないんですけど、施設面の改善での要望というところが、パーセンテージ、割合的に多いと思うんです。それで今年度、エアコンが壊れたりだとか、時間がかかっているというところがあったので、ちょっと次年度予算のところで、緊急時にすぐ充てられるようなというか、定期点検を含めたそういう予算というのを組み込むことはできないかというので、施設面の改善というところからですけど、要望があったんですけど、こういうことは可能でしょうか。

○中島委員　今、既にエアコンで言えば、冷暖房の保守点検は、実はやっています。それをやっているけれども、今年の夏場の強烈な暑さと、今回壊れた部分も、20年以上使っているものが壊れたのかというところではなくて、10年ぐらいのもので、耐用年数はもう少しあるかなというようなものが壊れていったりしましたので、冷暖房については、定期的な保守点検とかもやったりしていた中での故障であったかなと思います。また、緊急時の対応のために、緊急修繕というような予算で一定数各園、エアコンに限らず、修繕措置する予算は確保しております。

ただ、修理に時間がかかったというのは、予算的な部分よりも、エアコンの故障が、公立保育園に限らず、いろいろな事業所で、この猛暑での故障がこの二、三年特に多い。そうすると、修理をやっていただくような事業者さんが、簡単に言うとしててこ舞いで、修理をお願いしても、今日はもう二、三件の修理対応が入っていて、いっぱい、明日でいいですか、来週でいいですかということになるケースが多いのが実態です。本当に一番厳しかったのは、やはりけやき保育園の2階、3階が止まったときなんかは、夜遅くでもいいから来てくれということで、自分も園長も当日夜まで残って、7時過ぎに業者来てもらって、そこから修理にかかるというふうにもやったりしました。でも、どうしても、そうはいつでも部品の取り寄せも含めて、どうしても時間が多少かかってしまったケースについても幾つかあるのが実態です。私たちのほうとしても、そういったのが事前に起きないように保守点検を組んではいるんですけど、どうしてもそれをしていたとしても故障が発生しているというのが、近年の状況かというふうに思います。ご意見はごもっともだと思っていますし、次年度予算においてもそういった予算等をきち

んと確保、継続していくことが大事だと思います。エアコンの件については以上となります。

○齋田委員長　　くりのみの齋田です。補足なんですけれど、五園連の中で話があったのは、やはり優先順位をつけるって難しいなということと、公民館と例えば保育園とか、そういう意味で言うと、保育園、子どもの命が関わっているというところで、優先順位としては高いよねということのお話が出てきて。そういったところにもっと予算を使えないかということについては、ご検討を期待したいと。

○堤委員長　　ご要望は受け止めています。それで、故障が多いので、我々も予算要求で、その故障を減らすために、他の施設ではやっていない洗浄とか、そういうことができないかというのを検討しているところです。保育課長のほうでもそれをやっております。

その上でちょっと言い訳っぽくなってしまいうんですけど、状況を説明すると、保育園はやはり命に関わるので、予算が大きく不足するとかというのはないように、誤解を恐れず言えば、他の施設よりも多めに予算はつけられていると思っています。あともう一つは、保育課のほうで努力をしてくれて、業者との関係をつないでいるので、先ほどの説明でもありましたけれども、普通ならすぐ飛んできてくれないような中を、夜でも飛んできてくれたり、部品も事業者としても工夫して早めの対応をいただいている。こういった努力はしています。ただ、その上でもやっぱり故障が多いので、ゼロ歳児、1歳児、2歳児とかは、本当に命に関わってきますので、そのところでもう一段踏み込んだ対応が必要なのかなど。保守点検を2か月、3か月前ぐらいにやったのに、その後故障したとかもあるので。これだけ沸騰と言われるぐらい熱くなったので、フル稼働すると、通常考えられる以上に機器に負担がかかることで故障が起きているとも聞いています。保育園はほかの施設と比べても予算が不足するような状態がないようには、大きく不足することはないようになっている。ただ、その一方で、ご心配のような懸念もあるので、もう一段踏み込めないかというのを考えて、財政当局ともやり取りをしているということをご説明さしあげます。また追って何かできることが出てくれば、後日報告したいと思っています。

施設のご要望については受け止めた上で、そのような対応ということをご説明させていただいたところです。

○大川委員　　アンケートの結果を見て出ていた意見としては、施設のところで夏はプールが使えないということで、日よけの設置をお願いしたいとか、あとはトイレがかなり汚くなっ

ているというところについて、老朽化の面が大きいと思うんですけど、そこについても対応をお願いしたいというところ。あとは大雨が最近多いと思うんですけど、玄関前の屋根というのをもうちょっと広げられないか、子どもが濡れないようにというところで、こういう整備については、もうちょっと詳細な年間計画をご検討いただければというふうに思っております。

○中島委員　　まず大雨の関係、玄関前の屋根とか通路のところの日よけというところなんですけど、こちらとか、建築の規準の関係にも影響します。固定の屋根をつけてしまうと、そこで建蔽率に関わる話になるので、まずそういったことができるかというところについては、建築確認を取り直す話になります。ですので、プールの日よけについては、ポールを立てて遮光という形で対応しています。プールが使えないということについては、今、公立保育園では、外気温と熱中症のアラートのほうも活用しながら、水温と外気温の状況を見ながら実施しているんですけど、さすがに今年の夏、この状況であれば、遮布で日陰をつくったとしても非常に危ないということで、中止が多かったのは事実です。ただ、プールの中止はあったけれども、保育のほうは工夫しながらちょっとした水遊びとか、各園工夫はやりましたけれども、プールをやったかやらないかの側面だと、どうしても今年中止の日にちが多かったのは事実です。ただ、それは命に関わるので、そちらの判断については、園のほうで熱中症計も使いながら、本当に気を遣いながらやってもらったのが実態だと思います。ですので、日よけのところについても、遮布をどううまく貼るかとか、そういった工夫については園のほうと毎年相談しながらやっていますので、こちらのほうは引き続きやっていきたいと思います。

トイレの老朽化についても、こちらのほうは私どもとしても把握していることです。ただ、トイレの老朽化が特に、古い保育園ですね、けやき保育園以外の園のトイレが本当に古くなっていて、それを改修するとしたら大きな費用がかかるのが実態です。例えば命に関わる、本当に床が抜けるとか屋根の関係とか、漏水とかいろいろあるんですけど、どうしても限られたお金の中で修繕をやっていくときに、トイレの老朽化もきちんと余裕があればやりたいんですけど、それよりも優先すべき修繕が多いのが実態となっています。

今年でいえば、先ほど申し上げたようなエアコンの緊急修繕です。そういう緊急的な修繕に使える予算を各園ごとに決まった金額5園分、予算で持っているんですけども、それで余力が出ればこれをやりたいというのを幾つかリストアップしていく中で、エア

コン等が壊れると、そちらを一番最優先でやっていくというのが近年の対応になってしまっています。トイレに限らず廊下自体もコンクリートというか、ちょっと劣化している部分も当然ありますし、そういったところは全体的に把握はしています。毎年、特定建築物の点検を行っていますので、その点検等で指摘が出るような部分については、即座に予算もつきますので、そういったところに対応をしているところなんですけれども、トイレの老朽化などについては、そういった形での修繕よりは後手に回っているというのが実態かなと思います。予算があるけれども、どんどん最優先の故障が随時出てきてしまっていて、そちらのほうに予算も対応も手を取られているというのが実態になっています。

今年はそのままで大きなものはなかったのですが、近年で大きかったのはわかたけ保育園の水道関係を一気に変えたという事例もありました。それは水道管の老朽化で、水道の中で不純物、昔の水道管が鉄製だったりすると、さびが出始めるとかになると、水道管自体を変えなきゃいけないというような、老朽化してくるとやらなきゃいけないというのが起きたんです。ただ、もう古い建物で、壁の中に埋まっている水道管とかも取れない。となると、根元から別配線で、壁の外側を這わせて各保育室に水道を布設するというような工事も緊急で行ったりしています。また、わかたけはエアコンも、半分ぐらい一気に止まったことがあって、これについては本当に多額の予算が必要となったので、市の予算的には予備費を使ったりしました。その際には、わかたけ保育園ではホールで緊急の保育をやっていただいた経過もあります。

予防保全的な修繕が、保育園に限らず市全体のほうでなかなか機能的に行われていないという批判について、私たちも把握はしていますし、何とかしたいと思っていますけれども、どうしても随時起きてから対応するということが多いと思っています。

これから来年度、令和7年の予算要求の時期にもなりますので、今日いただいたご意見のところ、エアコン等も含めてですけど、私たちのほうも、子どもの保育を最優先でするためにも、命を守るために、そういった施設整備系の予算については要求を考えて上げていきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

○堤委員長      プールの話、日よけの話と、あと屋根の話は、建蔽率とかに関わってくるので、ご要望、そういう思いは受け止めた上で、保育課長が説明したとおりとなります。

トイレのほうは、エアコンもそうなんですけど、市は予防保全的な考え方を持っていません。予防保全をやったほうが良いという意見は議会からもいただいている、その努

力が一部見られるけれども、隣の武蔵野市がその辺をかなり前向きにやっているはずなんですけど、そういったところまでは小金井市は、今全体としても、学校とかも含めてその考えも持っていないので、なかなかその予算が取れていないところを、そこに關わる予算要求を保育課でも今考えてもらっているところになります。

トイレに関しては、学校の洋式化とかも含めてかなり時間がかかって大変だったんですけど、ようやく学校は一段落つこうとしている。エアコンの場合に比べると、子どもの健康に直ちに直結するとは言えないので、一段落ちるみたいな扱いになりがちだったのと、便器を含めて全部変えたらかなり費用がかかるので、それをどういうふうに合わせていくかということになります。そうすると、今、公立保育園の話で言うと、大規模修繕のほうが、個別計画と言いますが、個々の計画としては次期になっているんですけども、市全体の順序づけ、予算づけの中で、それが実際、園児をその間どういうふうに保育するのかという問題もあり、やる時期にかかっているところがあるんですけども、やれるという形で、予算化、工事の具体化ができていないところになります。

言いたかったのは、こういうのを大規模修繕と合わせてやるとかというのがよくあるケースですので、予算要求をして通るかという難しさもありますけれども、ご要望は受け止めていますので、そういった中でも何ができるかというのを考えていきたいということです。そういう意味では、大変恐縮なんですけど、単年度予算で来年度に向けてどうするかというのを考えますが、トイレはちょっと、そこも考える一方で、大規模修繕と合わせてとか、数年のスパンの中で併せて解決できるかとかというふうにもなってくるということを、ちょっとご説明させていただきました。以上です。

○石塚委員 関連して、屋根の玄関の部分はわかたけもあるんですけども、多分保護者のアンケート結果を見るに、もちろん建築基準法があることは重々承知ではあります。もちろん法律的に駄目な部分でも、例えばちょっと隙間を埋めて雨が降り込まないようにするとか、そういったことならできるのかなという意味も盛り込まれている気がしていて、屋根が狭いということは分かった上で入り込まないように工夫ができればいいなというのはあると思うので、できる範囲で可能ならば、お願いしたいなと思うのが1点。

もう一点は、大規模修繕の話が出てきたので、わかたけをはじめとして、もう50年近く経つことを考えると、これは本当にもっと長いスパンでありますけど、それこそ例えば建て替えるとか、そういうこともありますけど、やっぱり考えていかないといけない

んじゃないかなと、そういう時期に来ているとは思いますが、廃園問題もまだ見えていない部分がありますけど、小金井保育園はまだここに入ってこないで、そういうことも検討事項としてあるべきなのかなと思っています。以上です。

○中島委員 各園と相談しながら、法的な部分に引っかからないように、何かしらの工夫といったところができるかは、現場と調整させていただければと思います。大規模や建替えのところは、おっしゃっていただいたとおり、まず在り方の議論との兼ね合いがありますので、そちらのほうの議論を踏まえてというのが一つ。で、小金井保育園はそこには係りませんが、市の個別施設計画で、実は小金井保育園は、大規模な修繕に着手する時期を迎えているんですね。計画上は迎えてはいるんですけども、その計画を担保する市の実施計画というのがあるんですけども、実施計画上に予算が予定されていないので、大規模修繕がペンディングになっています。私たちは、計画時期が来ているのは分かっているんですけども、計画として予算を用意できないがために、計画自体が進んでいないのが状況となっています。いずれにしても、大規模修繕ができないとしても、現場の保育として支障が出ないように、必要な修繕については都度取り組まざるを得ないので、優先度を考えながら対応はしていくということです。以上です。

○堤委員長 公共施設の在り方を検討するということを、企画財政部のほうで動かしてまして、簡単に地域ごとにどんな公共施設の組合せが必要かという話なので、単純に大規模修繕もいいんじゃないかと、それを検討する会議ではないので直結はしませんけど、これも施設の優先順位というか、その辺の考え方につながってくるので、それも若干影響するかなと思います。申し訳なかったのが、その辺、大きい動きも踏まえながらご要望、我々もその施設面を改善しなければいけないと思いはもちろん持っていますので、その辺を組み入れてご説明するようにと考えています。

その他、五園連のほうで、ご要望とかで、この場でご紹介いただいたほうがいいご意見とかあったらいただければと思います。

○平山委員 前回の運協の場で、各園の行事について、土曜日にやっているところがあつたりとか、お泊まり保育があつたりだとかというので、それが共有されているんですかというようなどころでご質問させていただいて、たしかそのご回答が、それは各園の保育の方針、それにのっとって行事を企画してもらっていますというご回答をいただいたと思うんですね。

五園連の場で、各園の行事や、こういうことをやっているというのは共有されて、や

っぱり公立保育園というところで、土曜やったりお泊まりやったり行事をやっていたら、うちもできるのかなというところで、そういうのを園長さん、またはどこか分からないですけど、そういうコミュニケーションを取ったり、そこを相談する機会というところを設けてもらえることはできないんですかというようなところが、意見としてありました。

○中島委員 前回その話題になったとき、多分私のほうもその場でもお伝えしたかと思うんですけど、行事の持ち方については、各園の保育目標とかに基づいて計画を立てているというのをお伝えしていると思います。各園の取組について、共有する部分については、各セクションで、横の会を設けております。園長だったら園長会。園長以外でも、主任や主査が集まるそういう事務打合せの会、あとは看護職の職員が横でつながる保健の打合せ、栄養士が横で開く栄養士会とかも。ですので、各園での行事に限らず取組、対応については、そういう5園の横の会を各セクションで設けていますので、そこで共有はしています。ただ、あくまでそちらは共有であって、各5園で集まって、この園ではこういうことをやりますというのをほかの4園が承認しなきゃやれないとか、そういう会ではないです。そういう縛りがある会ではないですね。

ですので、5園横並びで、議決機関ではない。その会は、あくまでそういう情報交換の機能とかはありますけれども、その会で統一して作るべき、例えばマニュアルとか、熱中症の話も先ほどありましたけれども、そういう保健のマニュアルとかアレルギーのマニュアル、国のほうでそういった大きなマニュアルが改訂になると、園自体で使うマニュアル、こちらについては、共通のマニュアルを改訂していくような作業を、そういう会でやったりもします。いずれにしても、そういう場があるのかというご質問については、ありますというお答えになります。

○石塚委員 今に関連するんですけど、五園連の場でも話があったのは、お泊まり保育に限らず、例えばわかたけはお泊まりをさせていただいたんですけども、ほかの園はやっていないときに、どう伝えていけば。例えばやりたいと思っている父母がいるとなったときに、その役員会から伝えていくのか、それともいつ頃まで話すと、先生方に検討していただけるのかなみたいな声もあって。要するに、保護者としても思って伝えたい部分と、でも伝え方が分からないという声が実際にあって、その辺がうまく、何かお互いに理解できたり、共有ができるといいのかなという話は出ていますね。

ただ、もちろん今お話があったように、それぞれの園の方針とかお考えもあると思う

ので、一概に当然それが全部通るとは思っていないですけど、それをお伝えする機会がそれぞれあるといいかなと。例えばわかたけなんかは役員会、父母会のほうで年末にかけてアンケートを取るの、それを基に話し合うことはできるんですけど、園によってはそういうのがないのでみたいなこともあって、それがうまくできるといいなということでございます。

○齋田委員長　それもさらに補足なんですけれど、行事については分からないことのほうが多くて、ほかの園ではどういうふうにやっているのかということも見えないから、そういった情報に関して、例えばホームページだとか掲示物なのか、そういったところで正しく理解をそもそも得ることはできないかというような話も聞いていて、それを、ほかの園の行事を知った上で、もしうちの園でもやりたいというのがあったら、そもそも対応可能なのかということ。

○中島委員　繰り返しになりますけど、保育課としては、各保育園が今まで積み上げてきた保育目標とか保育の実施の積み上げがあるので、5園が全く同じ保育をやりなさいという指示はしていません。今おっしゃっていただいたご意見で悩ましいのは、各保育園で行っている行事を公立保育園の全保護者が知った上で、それを踏まえて、各園にこういった取組をしてほしいという要望を出すのはできないかということなんですけども、非常に悩ましいと思います。いろいろな意味で、要望を踏まえた上で保育計画を立てないといけないかということです。

小学校も同じだと思いますが、学校の年間計画を立てる前に、保護者にほかの小学校の年間行事予定を全部見せて、保護者からこの小学校をやっているから、こういうふうなことをやりなさいというのを受けて、計画を立てなさいとしまうと、非常にそれを仕組み化することも難しいですし、行事の在り方として、年間の計画を立てるに当たって、現場での意見というか、保護者の意見というのは当然大事ですけども、それをそういうスキーム化するというのは、ちょっとなかなか難しいと思います。

ちょっと言葉にはしづらいですけど、じゃあ、誰の責任で保育の実施計画を立てるのかということも、非常に悩ましい。そういう仕組みになってしまうと、その結論がいつ出で、誰が決定して、誰の責任で最終的に保育計画ができて年間の行事がスタートするのかというところがあいまいになります。ですので、そういう年間行事とか保育計画については、現状のお子さんを見ながら、現場の保育士に、保育園の責任において、保育目標に基づいた保育計画を立てさせていただくところにしていただきたいなど。ち

よっと言葉が私も難しいですけど。

○堤委員長 3点、申し上げたいことがあって、まず、一番、そもそも大事なのは、保育の質をつくっているのは、保育士の先生方だと思っています。ですので、保護者の皆からのご意見は大事にすることを前提に言えば、各園において保育士の先生方が話し合って、それぞれ独自の保育を積み上げていく、そういう話合いとか振り返りがされることがすごい大事だと。今、やっている在り方の質の話も、在り方検討委員会委員長の普光院先生もそういうことをおっしゃっていて、そういうことなんだと思っているんです。ですので、ご意見、ご要望を聞かないということを行っているわけではないですが、今、保育課長が申し上げたように各園においてきちんと考えて積み上げてもらっていく、これが小金井の保育の核なので、そこを大事にしたいという思いを持っているということは、ご理解をいただきたいというのが1点です。

2点目は各園の情報提供は、程度があるとしても、少なくとも詳細な行事予定を他の園の保護者等に伝えることは安全上ないということもご理解いただきたいんです。児童ポルノとかの問題も含めて、園の詳細な活動が直接の関係者である保護者以外に知らされることは危険を伴います。ですので、学校等でも、他の学校の行事のことを詳細に紹介することをしないと理解しています。そういう意味で情報提供に一定の難しさがあります。その園の保護者の方は直接の関係者ですからいいのですが、それ以外は難しい。我々も例えば他部署に必要ななかったらそういう情報提供することは、同じ役所内でもしません。必要でなければしない。それはそういうベースが、安全を確保する上でもそういう点があるんだと。小金井では、先生方の努力も含めて、一応安全が保たれていますが、全国で見ると危険はありますから。

3点目、その上でご意見があれば、取扱いは、まず一つは運営協議会になってくるのかなと思います。

○平山委員 おっしゃってることはよく分かっています。各園の方針が大事だなというところも分かりますが、各園の保護者が集まって、話をした内容を伝える場がどこかにあったらいいなと思うところだと思うんですね。なので、かっちりとした何かを設けてほしいというところではなくて、何か参考にしてこういうことができるのかなというのも、伝えられる場というのはあったらいいのかなという保護者の意見でした。

今のご説明をいただければ全然納得しますし、ただそこが伝わってないので保護者からこういう意見が、五園連の場に出てくるというところだなと思いました。

○中島委員      例えば父母会で懇談会とかやられたりするじゃないですか。そこで、そもそもそういったお話が出たりしてるんじゃないかなと思うんです。そういった場自体が今おっしゃっていただいた場なのではないかなと思うんです。個別に各園で懇談会がありますよね。クラスごとに保護者の方と各園の保育士がそういうお話をする場というのは設けているはずなんですけど、むしろそういう場面で各保護者の方が思っていたいていることと、このをおっしゃっていただくところは既にあるのかなというふうに思っています。

○石塚委員      誤解がないようにしていきたいんですけど、一応五園連として、流れとしては毎回、各園で前回の五園連からその日までどんな行事があったかを共有してるんですよ。そうすると、大体共通している行事と、違う行事というのは出てきていて、例えばこの行事では何をやったんですかとか、特に今回は泊まり保育があって、そこでやったやってないとかってなってくる、そこで初めて情報がお互いに五園連の場に入ってくるので、そうすると何かやっぱり保護者心理としても、いいなとか、あっちはやってるのにこっちはやらないのかみたいな、微妙な解釈のずれが出るのかなとは思っているんですよ。そういうのを知る場とか、懇談会の話が出ましたけど、そういう場がうまく回っていかないといけないし、多分私たちは五園連として出ていくし、その情報を持つからいいけど、知らない保護者は全くその知らないわけで、それがよいか悪いかは別として、一応五園連でそういう流れになったので、お話をさせていただいたという経緯をご理解いただければと思います。

○堤委員長      この点は思いは受け止めた上で、どう伝えていくかかと思っておりますので、一旦今日はここで受け止めたいと思います。

それでは、次年度の実施方法についての議論に入っていただいてよろしいでしょうか。まず基本的には、ウェブ、L o G oホームでやって、設問数も一定の回答率に結びついてるという意味では、設問等については、おおむね今年と同様でできたらどうだろうというのが事務局の考えになってはいますが、それについてご意見があったらということと、それから、何より時期の問題は固めたいということもありますので、時期について、今、保育課事務局的には同じ時期にやっていいんじゃないかという考えです。なので、それに対してこういうふうにもっと早めたらいいんじゃないかとかという形でご意見をいただけると具体的な議論になっていいかなというふうに思いますので、まずウェブ化自体は異議はないと思います。設問数をちょっと増やすとか減らすとかということについてご意見をいただいて、今日はその意見を出していただいて、今後、設問につい

ては別途詰めることとなります。あと時期についてご意見をいただければと思うので、いかがでしょうか。

時期のほうになりますが石塚委員がおっしゃったのは、もっと早くということでしょうか。

○石塚委員 別にそういう意味ではなくて、この時期に適してるのか、もうちょっと遅くてもいいのか、結局昨年度はそこがうまく合わなかったので、9月運協に間に合わず、11月に持ち越しちゃったので。それが今回なくて、ここで話し合えているというのは非常によかったと思います。

例えばあとは第三者評価もあるわけで、今回、在り方検討委員会もあったので重なっちゃいましたけど、例年であれば二つなんで、それで行くのであれば、この時期でよいのかどうかどうかどうか、それは市の集計作業とか含めて。

○中島委員 集計作業自体は、去年からの電子化とか、さらに去年電子化した後の項目見直しを運協委員、前任期の方にやっていただいたということで、かなり進んだかなと思っています。ですので、先ほど経年比較のこういう資料も出ていますけれども、一定程度の見直しができていますので、事務局としては、この内容でしばらくアンケートを取り続けることで経年的な変化を見ることはできると思いますし、項目の見直しについては必要性はもうそんなに高くはないかなと思っています。

ただ実施の時期については、省力化もできたということと、結果として在り方のアンケートは抜きにしてですけど、第三者評価のアンケートについては毎年、3年に1回順番で各公立保育園は受けていますけれども、夏場に大体アンケートの時期が来るので、そこがある程度、逆に言うと固定なんですね。5園のうちどこかが第三者評価を毎年受診していて、第三者評価としてのアンケートを利用者の方をお願いするのは夏場にもう固定で、どこかの園で発生していますので、これを避けるのであれば、もう前倒ししかないんですよ。

後倒しにすると大変なので、なのでその前倒しのところが、今日お越しいただいている保護者の代表の運協の委員の皆さんとかで、今年やったような時期よりもっと前に、項目をいじることをやらないのであれば、早期の実施というのは可能だと思っているので、その第三者評価のアンケート時期とずらす、前倒しでこのアンケートを終わらせるというような時期に見直しをかけるかというところが一つポイントかなと思います。どうでしょうか。

○齋田委員長 時期についてなんですけれど、この運協で今日、議論するためにアンケートの集計結果をいただいたので、先々週ぐらいだったかなと思うんですね。それは完了したのは大体どれぐらいの早さだったのか。

もしそのタイミングで終わっているのであれば、五園連の日程が、結構来年度予算との兼ね合いとかあるんですけど、五園連の日程が毎年、このタイミングかどうかというのは、微妙な話だと思っていて、これは2週間前だという話となってくると、間に合わない可能性が。若干の前倒しをしたほうがいいのかと思います。

○中島委員 分かりました。

○石塚委員 難しいなと思って、毎年微妙なんですよ、多分五園連がほぼ9月の3週ぐらいに来るので、そこがよほど祝日で動かなければ、今のままでもいいような気はするんです。というのは結局役員会で話をしたりとか、私たちも皆さんに案内したりするので、というのと、あんまり前倒し過ぎちゃうと、多分年度が変わって、子どもたちも、新しい保護者の方たちが慣れてきて、見えてきて、回答できると思うんですね。継続している保護者は毎年のは大体分かっているけど、やっぱり新しい保護者にとっては、その園のことも分からない、先生方も分からない中では答えられないと思うので、あんまり前倒しをし過ぎないのがいいのかなと思いました。

わかたけとしても、ちょうどこの調査結果の前に役員決めがあるので、周知するタイミングなども、ちょっと早めるぐらいなら行ける。あまり早過ぎなくていいと思います。

○堤委員長 2年前ぐらいの運協でも話があって、それこそ6月とかぐらいにアンケートを早められないかという話をお話だったんですよ、たしか。それは今、石塚委員のお話があったとおり、新しく入所した保護者が答えられないから早くやるのは難しいという話がありました。そういう意味で論点的には数週間、2週間とかですかね、若干早めるかどうかというのが論点だと思うんですけど事務としては可能ですか。

○中島委員 流れ的には、今年に関して言えば、運協自体が7月20日にあったんです。そこで実施のオーケーを取ったから7月26日からスタートしているだけなので、7月の運協で実施のオーケーではなくて、もう5月、もうその前の運協で項目の変更などなければ、開始時期を一、二週早めることは当然できます。今年は委員の改選もありましたので、ご説明して、5月の運協をやって、7月の運協で、在り方のアンケートもあったので、アンケートについて議論いただきましたけど、この日程でやりましょうかと決めたのが

7月20日だったので、7月26日からのウェブアンケートの開始になっただけなんですけど、そういったのをここで、ある程度議論というか固めてしまえば、早めに来年度は7月の下旬スタートを早めることは当然できる。7月にやるであろう運協の日がいつになろうとも、アンケート自体はいつから開始というのが、前もって決めてあれば全然できます。

○大川委員 途中の回答率とかというところも公開していただいたと思うんですけど、恐らく結構終盤、期限ぎりぎりで伸びてきたかなという印象を受けたので、それって多分お盆休みとか、そういったタイミングがあったから結構回答率が取れたのかなって思っている部分もちょっとあると思うので、早めちゃうと逆に回答率が下がるリスクというところもあるのかなと思っているので、回答率をキープしたいとか、どこに焦点を持っていくかというところで、時期というのも若干早めるだけでも変わってきちゃうのかなと思っています。

○石塚委員 あとはやっぱりどこでこの議論をするかだと思うので、9月運協で議論して、予算を組むのであれば、今年は間に合ってくるというのは一つポイントなような気がしますし、今、大川さんがおっしゃったみたいに、私たちが答えられるかどうかですごい大事な問題で、特に上に大きいお子さんがいる家庭はもうばたばたでどたばただと思うので、ちょっと私たちとしても落ち着いた時期に答えられるから、この時期なんだという気はします。

去年も議論があって、やっぱり長すぎても駄目だし、短過ぎても駄目で、絶妙な期間を設けるのがいいのかなというのは今年やってつくづく思いました。2週間ぐらいですね。

○堤委員長 基本的な方向としては、同様の経年変化を見るために同様の設問で、同じ期間でやってみるといところでいかがでしょうか。

(異議なし)

○堤委員長 ではその方向で次年度に向かっていければというふうに思います。以上でアンケートの件についてはよろしいでしょうか。

ではその他に入っていきます。その他の一つ目として在り方検討委員会の状況について吉田課長から報告をお願いします。

○吉田委員 それでは、保育課の吉田です。報告させていただきます。

それでは小金市立保育園の在り方検討委員会の開催状況について、前回の運協以降、

第2回及び第3回を開催しておりますので、口頭で報告させていただきます。

第2回の委員会は7月22日月曜日、午後7時から本庁舎第一会議室において開催いたしました。協議内容案、第1回の会議録の確認をした後、会議の運営について改めて協議を行いました。その後、各資料の説明や全体スケジュールの確認を行い、普光院委員長から保育の展望と課題【第二部】の資料を基にお話をいただき、近隣自治体の事例を共有しながら役割について協議を行いました。最後に、在り方検討委員会でのアンケート調査内容について協議を行い、第2回目を終了しました。

続きまして、第3回の委員会を8月22日木曜日、午後7時から本庁舎第一会議室において開催いたしました。協議内容はアンケート調査結果速報版や各委員から提出していただいた役割に関する意見を基に、市立保育園の役割について協議を行いました。その後、市民ワークショップ実施概要案や就学前児童インタビューの実施概要案の資料を示し、ご意見等をいただきました。最後にその他として委員長および委員から要望のありました保育園の見学について説明を行い、第3回を終了いたしました。

なお各委員会の資料につきましては、ホームページに掲載しておりますのでご参照していただければと思います。

今後につきましては、10月には委員長および委員から要望のあった市内保育園の見学を実施したいと考えております。また11月には市民ワークショップの実施、12月には就学前児童インタビューを行い、多様な意見を聴取しながら役割についてまとめていければと考えております。

その役割を実現するための課題や新たな保育業務の総合的な見直し方針に係る課題などについても協議していきたいと考えております。

最後になりますが、次回の第4回の在り方検討委員会は10月24日木曜日、午後7時から第一会議室で開催する予定となっております。以上でございます。

○堤委員長

ありがとうございます。まだ委員の方にいろんな立場でいろんな思いがありますので、議論をどうかみ合わせるか、在り方の議論がそこまでできてないんじゃないかというご批判もいただきますけど、事務局としては徐々にかみ合ってきたのかなと。そして前回、普光院委員長から役割の関係を四つに整理した委員長案を出していただいております。

①地域の保育の質の向上を促す役割、②難度の高い保育を率先して担う役割、③在宅子育て家庭を支援する役割、④緊急時に地域の子どもと保育を守る役割の四つの観点があるとされています。それに対して、委員から意見をいただいたのは、小金井の特有の

課題、いろいろありますけれど、施設も含めて、そちらのほうがよく考えるべきなんじゃないかということと、もう一つ、例えば学芸大学があるというような、地域資源、小金井の地域の強みみたいなのを組み合わせて、そこを入れてきたらいいというご意見をいただいて、これが次の第4回のところでも議論して、もう一段深めた役割をまとめるというのにつなげるという流れになります。

その上で、11月4日にワークショップを予定してまして、在り方検討委員会でまとめた役割と、役割の実現に向けては、まだ、乗り越えるべき課題があるということに対して、フラットな、多様な意見をいただいて、それを在り方検討委員会にフィードバックをして、もう一段深まった議論をしてまとめていく、そういう流れの中にあるという状況でございます。そういう意味で、今年の年末から来年に向けてはその実現に向けて、どういう課題があつてそれをどう乗り越えていくのかということが大事な話になっていって、非常にタイトですけど、来年5月までに答申をまとめたいということです。

保護者の皆さんから言えばすごく時間がかかっているという印象かなと思うんですけど、中でやっている私たちからすると、本来2年とか3年かかりかねないことを、1年弱でやろうとしてまして、実際にはご尽力いただいて正副委員長からも、この短期間でできるのかというお叱りを受けながらやっているというような状態でございます。

では、その在り方検討委員会の実施状況等についてのご質問等ありましたらいただければと思います。

○石塚委員 さっきの運協アンケートの話に戻っちゃうので恐縮なんですけど、各園の保護者アンケートの結果、やっぱりこの在り方検討委員会につながる部分が多いなと思っていて、それこそわかたけの内容しか深く知らないですけど、質の良い保育を公立がやる意味であつたり、やっぱり公的サービスとして、先ほどオフィシャルな、公的な部分が出ましたけど、その先生たちの指導の質と保育の内容とか、技術であつたりデータ上であつたり、ここが一つの強みなんじゃないかなとは見ていて、あくまで一意見ですけど、やっぱりそういうところも何かまさに保護者の声なので、そこもちろん委員の方たちには五園連などと重なりますけども、一つの意見として出せるんじゃないかなと思いました。

あとは園庭があるというのもアンケートで多数出ていますし、私立は園庭がないからそうだというのではなくて、それが本当に公立が果たしている役割なのかなというのは、常々、改めて感じておりました。

ちょっとそこつながるか分からないのですが、五園連でも出ていたのが、アンケ

ート上でも出ているのですが、障がいを持つお子さんとか配慮を必要とするお子さんの支援もそういう一つじゃないのか、わかたけもやっぱりそこを私立園では入れずにわかたけが受け入れてくれたことが、非常にありがたかったという意見もいただいていますし、それが、公立5園の特徴だと思うのです。なので、こういった部分を含めて、何かやり方検討会につなげていけるといいなという一意見です。

○堤委員長      例えば今の障がい児や配慮が必要な子への対応というのは、普光院委員長がまとめられた四つのうち難度の高い保育を率先して担う役割に当たると思うんです。小金井は認可保育園として、公立も私立も共通で期待される部分と、そうはいつでも特に公立のほうが対応がしやすいのかとか、あと、公立と民間では同じ役割でも、ある意味自然に公立園に期待される部分とかが関わってくると思いますので、例えば医療的ケアとかもそうです。民間保育園でもできるし、導尿とか含めてやっていただいている保育所がありますけど、かなり重いケースになってくると、看護師さんが必須になります。配置するのは補助金を出すというスキームなので、促進はかけていますが、民間園では公立保育園のようにいつもいるとは限りません。公立保育園でも看護師さんがいらしても、専門的で慎重な対応が必要なケースとなるとただ看護師さんであるというだけでは難しくなっています。そちらの関連も含めて今、保育課長もとても頭を悩ましていますし、園長先生にもご心配、ご負担をかけながら日々対応していただいています。公立には、看護師を置いているという部分もありますので、また、この間で培ってきたノウハウみたいなものもあるので、その辺も見て、在り方検討委員会での指摘のあった具体的な課題、今、石塚委員からいただいたご意見につながると思うのですが、在り方検討委員会で協議いただいているところです。

皆様には、傍聴に来ていただいて大変ありがたく思っています。また引き続きご注目もいただいて、ぜひ傍聴とかもお忙しいかなと思いますが、よろしく願いいたします。園長の先生方もご出席と、あと傍聴等を含めて本当にありがとうございます。

それでは、その他の2として、保育課からコドモンのさらなる活用についてというのを考えていますのでこれについてご説明をお願いします。

○中島委員      既に、9月から5園全体で始めている部分と試験的に小金井保育園のみで始めることがありますのでお伝えをさせていただければと思います。

まず、コドモン自体は新型コロナウイルス感染症の拡大の時期に、登校園の管理を、やはり感染症が発生したときに即座にできるようにという部分もあって導入した経過が

あります。ただ、そのときは主に登校園管理と欠席連絡に特化する形で機能を限定して、最低限のIT機器、タブレットとかの導入で開始した経緯がございます。

しかしながら、この間のアンケートのご意見等もありましたし、私立の保育園はICT化の補助が潤沢についてございますので、各保育室にPC1台、タブレット1台とか、そういったレベルで補助を使って、ほとんどの私立園では、ICT化がすごく進んでいる状況もあります。

ただ、公立についてはそういう補助がない中で、どうやれるかというところが課題になっていました。施設の業務支援という形で、小金井の公立保育園はコドモンというシステムを導入してます。この9月2日より、機能活用について以前から検討していた部分を踏まえまして、機能を拡充しています。こちらは保護者の方の利便性の向上や園職員の業務効率化を図ることを目的としてございます。

これまで使用していましたが、先ほど申し上げた登校園の管理、打刻、欠席の連絡に加えて、新たにお知らせの事前配信やアンケート機能、あとは園からの資料関係を置く資料室というような機能を使用することとしてございます。これらは保護者の皆様に専用のアプリケーションを用いて連絡等を行っていくようなやり方を取ってございます。

こちらの機能を使って、利便性の向上や園職員の業務効率化を考えていますけれども、まだ導入、9月始まってしばらく、メールの配信とかやっていますけれども、従前でご意見をいただきましたが、園から配信のデータのもの、ワードやエクセルの状態のまま、スマホで見にくかったりとかご意見をいただいています。PDF化をしたりとか、開始してからいただいているご意見も踏まえながら、よりよくしていきたいと思っております。ご不便等おかけする場面もあるかと思いますが、ご協力をいただければと思います。

あわせて機能のさらなる拡充についてを、保育課のほうでも必要性を感じていまして検討してございます。具体的に申し上げますと、さらに連絡帳の機能を拡充できないかと思っています。ただこれをやるに当たっては先ほど申し上げたような、各保育施設でのPC機器、あとは通信環境整備というかなり大がかりな費用がかかるものになります。

今、庁内で機器を調達しまして、一部、ポケットWi-Fi的な回線部分と、タブレットを複数台、確保ができました。ただこちらで、5園全部の連絡帳の機能をやるほどの台数的な余力はないんですけれども、まずこちらを使って小金井保育園の5歳児クラスで限定的に連絡帳機能の試験運用をやってみたいと考えてございます。小金井保育園

の該当のクラスにつきましては、そちらのほうのご連絡をお伝えして、開始の準備を進めているところになります。

この試験運用を踏まえて実際の業務効率化とか、利用者の方からのご意見を踏まえながら、考え方を整理して、それを踏まえて、市として予算が確保できるかという大きなステップに進めていければと担当としては思っておりますので、こちらのほう、コドモンの機能拡充については取り組んでいるものをご報告をさせていただきます。

私からは以上です。

- 堤委員長       ではコドモンの活用についての部分でご質問等あればいただければと思います。
- 平山委員       アンケートのところで、5歳児クラスで試験運用して、ノートを復活させてほしいという意見が出ていて、それと並行して電子化も進めてほしいという意見もあって、なかなか難しいなって。多分ですけど、保護者の心配事としては、電子化、コドモンになったら、保護者から保育園に伝えにくくなるんじゃないかというような、そういう懸念がちらほらあって、ノートだとさらって書けるけども、コドモンになると入力するところ、伝えにくくなるよねというような話がちらほら出てたりします。
- 中島委員       それは入力に対するハードルが高いということですか。書くという行為よりも入力という行為が……。
- 平山委員       それもあると思うんですけど、実際、自分は電子化したほうが楽だと思うんですけど、ノートを通してつながれるじゃないですけど、その意図がより分かるじゃないですけど、なんかそういうところが、そういう意見が出ていたのかなと思っているんですね。
- 中島委員       恐らく一定数、私立保育園でも同様のご意見等があったとは聞いております。システムでやるよりも、今まであったようなノートのやり取りのほうがいいという方、お考えの方も当然いらっしゃった。ですので、そういった部分で出てきたご意見なのかなと。
- ただ最終的にどうするかは、まだこれからなんですけれども、恐らく選択制にするとした場合、現場の負担が倍増するので、どうにかするにしてもやり方は統一をしないと、このご家庭は電子化、このご家庭はノートですというのを併存するような結論というのは難しいというのをご理解いただきたいと思います。
- 平山委員       1点質問なんですけれども、実際5歳児クラスで運用してみて、その保育士の方、また現場の方々のご負担というのは、多分減ったのかなという、というのもアンケートの中にもその保育士の業務が大変なんじゃないかとか、あとその処遇とか、そういうところも改善したほうがいいんじゃないかというような意見もあって、電子化して、さらに負

担が増えてるんであったら、ちょっと本末転倒なところもあるのかなと思ったんですけどそこら辺はどうですか。

○中島委員　これから始めることとなりますので、改めて実施後検証したいと考えています。なぜ小金井保育園の5歳児クラスかというと、年齢別保育をやっている唯一の園で、異年齢のクラスだと、そこで運用開始したら、また三、四歳の方は進級しつつ、ノートに戻るとかという、やり方の変更で支障もあったりとか、現場でいろいろ考えた結果、規模的な部分も含めて、年齢別保育をやっている小金井保育園の5歳児クラスは、この残りの半年、卒園するまでの限定的な期間が設定できる。ここで試験運用を並行してできないかというのでご協力を、小金井保育園の5歳児クラスの保護者にお問い合わせをすることを決めました。

その中でポイントとしてはやはり利用者の方のご意見というか、感想も出てくるでしょうし、実際に運用する保育士側が運用的にどうかというのも、この試行運用の中で把握をしたい。そもそもやるに当たっても、今庁内の調達できたタブレット端末を利用して実施しようと思っていますが、そういう端末の適正台数とかも試験運用の中で見ていかなきゃいけないと考えています。

○堤委員長　そのような意味で平山委員がおっしゃったような現場の負担とかというのも含めて検証していく。それで考え方を作っていくというふうに進めさせていただきたいと考えています。

○齋田委員長　一応、五園連で出た話をご紹介までなのですが、先ほど、中島課長から教えていただいたとおりで、コドモンの活用という目的としては、先生方の業務の効率化と機能拡充ということですか。

○中島委員　あとは保護者の利便性向上ですね。

○堤委員長　どこでも見られるとか。

○中島委員　今までやっていました、特に欠席連絡とか、従前電話だけだったものが、やはり朝の時間で電話がつながりにくいとか、電話するために、でも自分は通勤途中で電車に乗らなきゃいけないしというのはありましたので、欠席連絡をコドモンでできるようになったというのは、朝の事務室の業務的にも、業務負担の軽減にもなりましたし、保護者の方の利便性向上にもつながったと思うんです。それで今回、機能拡充を検討するというのは、やはりその2点の視点で見ていく必要があります。

○齋田委員長　このままどんどん機能を拡充していく、もっといろんなことが考えられる。

○中島委員 採用するシステム次第というところになるので。ただ、そこでシステムでできる機能を全部やりたいとも思わないんですね。今各園で、既にやっていたらっしゃるところ、その業務と使えるであろう機能と、あと費用対効果、そういった折り合いをつけながら、何より、他の保護者の方的にその機能があってもということであれば、そもそもそういう機能は採用する必要がないんです。

そういったところは様子を見ながらですけども、私たちのほうで今議論して、ある程度検討しているのは先ほど申し上げたような、9月に開始したのがお知らせの一斉配信、これは先ほどあったメール配信との重複サービスをコードモンに転換、アンケート機能、園で状況を個別に伺いたいときに保護者の返答をこちらでいただくという、あとは資料室。登園許可証とかあいつたデータのところを、資料室のところで、いつでもダウンロードできるようにしているところを、まず進めました。

このシステム化で一番メインになるであろう連絡帳、ここを、今、試験運用で確認したいと考えています。

○齋田委員長 先生方の業務負担の軽減は重要だと思っていて、今後の方向性みたいなところがちゃんと伝わっていない感じがしました。急にコードモンが拡充していくみたいな受け取りをしたご意見だったかなと思って質問をしました。

○堤委員長 利便性向上、現場の負担軽減ですね。

ちょっと蛇足なんですけれど、一つだけ委員の皆様にご理解いただきたいことなのでお伝えすると、民間保育園に比べると、公立には結構縛りがあるということなんです。セキュリティーですね。市全体のシステムはマイナンバー系と、官庁間の情報連携をしたり、各種の業務システムが乗っているLGWAN系統、インターネット系統の3階層でやっているんですが、マイナンバー法との関係もあって、いずれの階層も厳しいセキュリティーの縛りがあります。

そうすると、すごく便利な民間のシステムが仮にあったとしても、それが行政のセキュリティーに対応していないと、公立園のシステムとしては採用できないということも起きるので、その中で利便性と業務負担軽減というのを考えています。場合によっては民間で使ってすごい便利なシステムも、市役所では採用しにくいものもあるんだということも頭の隅に置いておいていただけるとありがたいです。

○石塚委員 すごく意図が分かって、五園連でもその意図だったり、運用の仕方が分からなかったとかが出ていたので、ここでご説明いただいたことがありがたいと思います。多分五園

連の皆様もこれで、納得できるかと思うのですが、やっぱりこのDX化を進めていくに当たって、やっぱりPCの配備は必然的に必要で、本当にまだ、職員数、少ない端末で先生方が苦心されているのも重々承知なんですけれど、こういうことを進めていくに当たって、例えばPC端末、どれくらい、どう変わるんですか。

例えば各園に1台ずつなのか、もう少し増えていくのか、その辺りがわかればと思います。

○大川委員 去年もオムツの処理の問題をこの時期に話して、3月ぐらいに急転直下で対応いただけるようになったという顛末があったので、だから今回のコドモンのことも、多分、試験運用なので、例えば年度末ぐらいで1回それが見えてくるのかなと考えていいのかなという想像しています。

○堤委員長 ご意見をありがとうございました。引き続きご協力というか応援も含めてよろしくお願い致します。

では、行政からのその他報告、説明事項は終わりですので、保護者委員から議題として、または年度報告等を含めてありましたらいただければと思います。

○齋田委員長 保育士不足のところについて、先ほどのコドモンの話とちょっと重なる部分があるんですけど、先生方の負担を減らすために、一部の業務を例えば外注化できたりしないのかということについて意見があったので、検討していただけないでしょうか。

○中島委員 おっしゃっていただいたような視点というのは重要だと考えています。私が保育課に配属されて以降、もともとは例えば保育士の方に、毎年のプール掃除をやっていただいていた部分を外注化して、保育士、園の職員がやらなくて済むようにしました。そういった視点での業務についての見直しというのは当然あると思います。

あわせて各公立保育園でいうと、私立保育園と違うのは、用務員が会計年度任用職員ですけど、配置しております。こういった職員は私立保育園ではなかなか配置してなかったりする職員でもあるので、そういった人の配置だったり、業務委託だったりで園の保育士が保育に集中できるような形の取組を行っていますし、今いただいたようなご意見や視点で、業務について引き続き検討は進めていきたいと思っています。

ちょっと話題も戻りますが、そもそものエアコンの故障もそうですけれど、その故障をすると故障の対応だけで、園の職員が手間を取られますのでそういった部分からいくと、そういった負担自体をかけない。そのためにはエアコンとかについても、きちんと動いてくれば、故障をしたら業者を呼ぶ、業者の対応で園長が捕まる。そういった口

スが減るわけですから、いろんな側面で、園の職員が本来であれば、やらなくていいような余計な部分を何とか減らすということについては保育課としても、予算の確保だったり、工夫だったり、そちらのほうもやっていきたいと思いますので、引き続き、保護者の皆さん、五園連のほうからもアイデアとかご意見をいただきながら取り組んでいきたいと思っています。

○堤委員長 委員の皆さんから何かありますか。

○石塚委員 保育士のところですけど、やはり運協アンケートで一番多い要望は、保育士の欠員の問題についてで、自由記述欄を見ていると、すばらしい先生方が多いからこそ、やっぱりしっかり確保してあげたり、待遇改善してあげたりとか、本当にいろんな要望があるので、結局、わかたけも書いてましたけど、毎年アンケートしているならちゃんと改善してほしいという声が非常にあって、これも毎回の協議、議論となっているので、引き続きの改善をぜひお願いしたいなと思っているのが1点。もう一点すみません、私も全然勉強不足で、調べたら出てくるかもしれないですけど、五園連でもホームページに上がっていったらいいよねという話があって、それでちゃんと見てくればよかったんですけど、9月付けで各園のホームページが、紹介がすごくしっかり上がっていて、ありがたんだと思って、今気づきました。もっと早く気づいていればよかったんですけど、なので質問なんですけど、これは市の担当の方がやっているのか、今後どう更新されていくのかを教えてください。

以前からホームページ通して、それぞれの園のよさだったり、こういう保育をやっている園があるんだということを発信していただきたいと話をしている、すごくしっかりしたものが出ていたと、今後どうなっていくのかなというのを知りたかったんです。

○中島委員 ホームページの更新自体は、現状は、保育課で各園の情報を取りまとめて更新をかけています。今回も園情報の充実を目的に各園で調整してホームページの更新をしたということになります。

更新の頻度については、各園と調整する必要があると思っています。

引き続き、どういった情報発信ができるかというところで、個別にイベント関係とかであれば、そもそもの保育課のXのアカウントを使ったりとか、公立保育園に限らない情報発信であれば、今、プッシュ型としてLINEとかを始めたとかしています。

施設の紹介ページとしては、今5園ごとに、個別に市のホームページ上にありますが、これを各保育園の園の職員が自由に運用というところまではいっていないのが実態です。

○石塚委員       ありがとうございます。負担を増やしてしまって申し訳ないので、何か五園連でもあったのは、いつもイベントの写真がうまく出てくるといいよねって思ったんだけど、例えば子どもたちが写っちゃうとそこは個人情報の関係でアウトなので難しいと思うんですけど、そこがうまく回るといいなと期待をしています。ありがとうございます。

○堤委員長       ありがとうございます。ほかにこの部分で話題にしたいことはございますか。

(なし)

○堤委員長       荒木委員、坂井委員から何かございますか。

○坂井委員       特にないです。

○堤委員長       荒木委員も途中からご参加どうもありがとうございました。

それでは、以上で議題は終わります。

まず次回の日程についてご案内します。11月16日土曜日、同じく15時30分、午後3時半から同じ801会議室で実施の予定となっていますので、よろしく願いいたします。

本日の日程は全て終了いたしました。会議を閉じ散会といたします。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

閉 会